

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 878 号	氏名	中島 潤
学位審査委員	主 査	副 査	副 査
		渡邊 郁哉	村田 比呂司
		筑波 隆幸	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1. 研究目的の評価</p> <p>現在歯科臨床で用いられている 4 種類のセラミック材料（リユーサイト強化型ガラス、二ケイ酸リチウムガラス、イットリア系ジルコニア、長石系焼成陶材）と人歯エナメル質の摩耗を比較検討したものであり、研究目的は妥当である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>米国アラバマ大学で確立された歯冠修復材料の摩耗試験法に準じて 2 成分系摩耗が行われた。超深度形状測定顕微鏡を用いて咬頭試料の摩耗高さや摩耗量、および対合エナメル質試料の摩耗深さと摩耗量が数値化されている。さらに、摩耗した試料の表面性状が走査型電子顕微鏡を用いて観察されている。このように複数の手法を用いて摩耗が客観的に分析、評価されており、統計処理も適切であるため、研究手法は妥当と考えられる。</p> <p>3. 解析・考察の評価</p> <p>測定されたエナメル質同士の摩耗高さを、既に報告されている口腔内における歯の摩耗高さと比較した結果、本摩耗試験は口腔内における約 3 年間の摩耗に匹敵するであろうと考察されている。4 種類のセラミック材料のエナメル質に対する摩耗をエナメル質同士の摩耗と比較した結果、エナメル質同士の摩耗は標準偏差が比較的大きく、またイットリア系ジルコニアだけが他の材料やエナメル質と比較して有意に摩耗の数値が小さかったことについて、生体は摩耗に関して比較的広い許容範囲を持っているが、イットリア系ジルコニアだけはその許容範囲を外れているのではないかと考察している。さらに理想的には、エナメル質と同等な耐摩耗性を持ち、且つエナメル質咬頭と同程度に対合エナメル質が摩耗する材料が咬合面修復材料として望ましいと考察されている。これらの研究結果と考察内容は高く評価でき、今後の研究の展開、臨床への応用が大いに期待できる。</p> <p>以上のように本論文は歯科補綴学的研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。</p>			